

藤沢

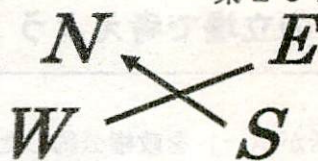
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2011年2月1日

第201号



- 主 事
- ・ T P P生活者の立場で考えよう
 - ・ 武田との環境保全協定に対する意見書
 - ・ 藤沢にナウマンゾウがいた
 - ・ 武田薬品焼却炉委託に住民要求みのる

<http://comcom.jca.apc.org/econet/>
事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳
☎ / F A X 0466-87-4922
e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

実験動物焼却炉の100%外部委託を発表 住民要求みのる

一昨年以來続けてきた武田薬品研究所の創薬・バイオ・実験動物焼却炉から湘南の環境と市民生活を守る市民運動も、昨年12月26日行われた住民説明会に於いて、武田薬品大川取締役より、「動物実験の焼却は研究所内部で行わず、100%外部委託する」と言う約束を取り付ける成果をあげた。これは、市民の署名や請願、市民集会、周辺抗議パレードなどの運動の中で、武田薬品という大企業を相手に、焼却炉が完成しているという状況の下で稼働を断念させたことは、住民運動にとって画期的な出来事といえる。

しかし、武田薬品はこの約束を協定や文書にすることは拒んでおり、また住民参加の安全協議会の設置は依然拒否の態度を変えていない。武田薬品研究所から排出される公害は、焼却炉の排煙ばかりではなく、大量の実験動物を削減させる問題、バイオ・遺伝子生成物、汚染した排水、排気、P3実験問題等多岐にわたっており、引き続きこうした問題にも取り組み、少なくとも市民参加の安全協議会設置を実現させなければならない。

2月19日の操業開始に向け、市民参加の安全協議会の設置を

武田薬品は2月の19日に竣工式を行い、研究所の操業開始を行いたいと発表している。しかし、住民参加の安全協議会設置問題では、昨年8月、11月に藤沢・鎌倉両市による住民意見の募集、パブコメ等に、武田連絡会の対案を始め、多くの市民が意見を提出したにもかかわらず、両市と武田薬品が示した安全協定案には、全く市民の意見は採り上げられず、行政と武田薬品だけの協定になっている。行政は市民を代表して武田薬品と協議するから市民の安全は守られると言って住民参加の安全協定の締結には消極的だが、今回の焼却炉の外注化問題に見られるように、最終的に武田薬品を動かしたのは住民パワーであり、市民参加抜きで安全協定はありえない。

安全協議会参加の市民代表は、周辺自治会に限るべきではない

1月30日には、市民参加の安全協議会の設置などを求めて、第2回の住民集会と武田薬品周辺パレードが行われた。武田薬品は周辺自治会との連絡会設置を持って安全協議会に変えようとしているようだが、連絡会と協議会とは大違いである。協議会はいくまでも双方協議の協議会であるべきであり、一方通行の連絡会であってはならない。また、市民代表も近隣自治会だけに限定すべきではなく、焼却炉ばかりでなく大量の研究所排気で影響を受ける3km圏内の市民、排水で影響をうける大清水浄化センター並びに境川下流域の住民も加えるべきである。

武田薬品研究所建設を巡る住民運動も、2月19日の操業開始を目前に大きな山場を迎える段階となった。多くのみなさんの運動へのご支援をお願いします。

(武田問題対策連絡会 小林麻須男)



クイナ (越冬のため水辺に南下する)

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）

生活者の立場で考えよう！

「国民の生活が第一」を政権公約した民主党菅首相は、今年の二大政治目標として消費税増税とTPP交渉参加を掲げ、与野党協議を呼びかけた。自民党・公明党・みんなの党まで基本的には政策一致している状況だ。また、大手新聞各社の社説は、菅内閣方針を支持しているように読める。

TPPについては、農協・農民団体をはじめ、地方自治体の多くが反対していて、いま、TPP問題は、消費税増税とともに、政治の一大争点化している。

農協などは、TPP参加により日本の農業・農家が壊滅すると反対運動を展開しているが、一般消費者は、食品の輸入自由化で安い米や牛肉が買えて生活が助かるのではと理解している人も多いようだ。

TPPとは、環太平洋戦略的経済連携協定の略称で、各国と関税を原則ゼロにする協定。政府は「平成の開国」という観点から、農業分野、人の移動分野、規制制度改革分野において、推進するとしている。

1、 農業分野においては

農林水産省は、関税が撤廃されると、日本の農産物生産量は、米90%、バター脱脂粉乳100、牛肉75%減少し、9割の水田がなくなり、水田の果たす環境保全などの多面的機能が喪失。食料自給率は、現在の40%から13%に急減すると試算している。

昨年国連発表の世界の食料価格は統計開始の1990年1月以来最高を更新している。異常気象、地球温暖化、人口急増、食料不足、価格急騰など、今世紀はエネルギーと食料危機の世紀であるといわれている今日、食料自給率を高め、自国の国民食料は自国の農業生産で確保する「食料主権」を確立することこそ国民生活を守る基本だ。

2、 人の移動分野においては、

日本医師会は医師・介護士など国際的な移動が医師不足・偏在に拍車をかけ地域医療を崩壊させるという。

海外から安い労働力が流入し、国民の労賃を相対的にひき下げる。

3、 規制制度分野においては

非関税障壁を撤廃する。輸出国から食品添加物・残留農薬規制の緩和、植物防疫残留農薬基準値の緩和が要求され、日本の自動車の安全基準や 排出ガス基準を緩和させて、外国車の輸入促進も要求している。

金融・保険・郵政サービスの自由化とともに、医療に保険外の自由診療を併用する混合診療を解禁し、自由価格の医療市場を拡大し、国民皆保険制度の崩壊。協同組合の共済の税制優位性を民間と同条件にひき下げる。

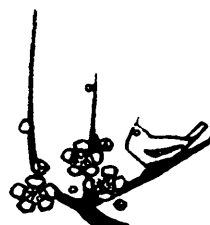
4、 その他、建材、水産物、繊維、皮革、履物などの、市場開放で、地域経済全般に影響を受ける。

生活者の立場から考えてみると、農民を含む生活者は、世界の食糧事情が逼迫し価格上昇が予想される中で、農地を減らし、自然環境を破壊し、食糧自給率を下げ、労賃を下げ、失業を増して、不安な農畜産物を購入することになる。その上、健保もなくなり、アメリカのようになる。

こうしてみると、TPPは、日本とアメリカの大資本のためのグローバルな経済成長戦略に他ならない。

先の総選挙で、国民の生活第一の民主党政権に期待した国民としては、生活者国民の立場から、この際改めて、TPPが真に「国民の生活第一」を目的とする政策であるか検討してみることが必要ではないか。

（諏訪謙司）



武田薬品工業株式会社湘南研究所と の環境保全に関する協定書」(草案)に 対する意見並びに修正案

武田問題対策連絡会

2010年12月号(第199号)P.5からのつづき

⑥、生物・化学物質、微生物、バイオ生成物等の検査体制の確立について

草案では、生物・化学物質微生物、バイオ生成物等の管理についてはもっぱら法令遵守が謳われているだけで、上乗せ目標が何処に定められているか定かでない。また、P3実験はやらないとは何処にも書かれていない。特に、武田薬品研究所がバイオ・創薬・動物実験研究所であるにも係わらず、微生物並びに遺伝子組換え生成物の場外排出を防止するため、それぞれの中継槽並びに排出口に於ける定期的に微生物培養試験を行う検査体制が何ら記載されていない所に問題がある。

実験取扱いの微生物並びに遺伝子組換え生成物の場外排出を防止するため、それぞれの排気口に於いて排気を採取し、定期的に微生物培養試験を行うこと、またその結果を遅滞なく市に報告することを協定に明記すべきである。また、P3レベル、P4レベルの感染性の強い病原菌は当施設においては取り扱わないことを協定書の本文に明記すべきである。協定書の本文に記述されない場合、「もっぱら法令遵守が謳われているだけ」であるから、協定文が一人歩きして、武田が日本の法令を遵守する限り市民の要望にかかわらずP4も研究実験が可能となる。従って明記が必須である。

⑦、実験動物の管理、削減について

一日の実験動物の焼却量900kgを武田薬品研究所の年間稼働日250日、マウス換算(1匹体重35g~40g)で計算すると、1日900kg $\div$ 35~40g=25000匹 $\times$ 250日=年間600万匹のマウスを使用することになる。600万匹というのは、日本の薬品・化粧品工場で年間実験動物として使用される数に匹敵する数量で有る。

このような大量の動物実験施設は日本でも最大であり、世界でも例を見ないとのことである。このように大量の動物実験を行う施設にあっては、単なる実験動物の逸走防止とか、飼養及び保管並び

に苦痛の軽減に留まらず、世界的に問題にされている動物愛護の精神から厚生労働省の基本指針に基づく「動物実験委員会」の設置ならびに、第3者も加えた実験動物倫理委員会を設置し、代替法の利用と代替法開発研究、実験動物の削減、定期的の実験動物の種類別使用状況等に付いて報告する他、年度毎に削減目標を定め結果を報告することを協定に盛り込むよう求めてゆかなければならない。

⑧、実験動物焼却炉の外部委託について

前記の様な大量の動物実験の実施で使用済みにされる死骸を焼却することになる焼却施設を目の当たりにする住民の精神的苦痛、煙による臭気、ダイオキシン等化学物質の排出による健康問題等から、住民が住宅密集地での実験動物の焼却に反対するのは当然である。草案は、実験動物の焼却を「物の焼却」と表現しているが、命ある実験動物の焼却を、「物の焼却」と表現する無神経さにあきれるばかりである。実験動物の死骸の焼却を住宅地で焼却する事業体は、全国でも武田薬品以外に無い。修正案が求めているように武田薬品自身が立地上、条件のふさわしい場所に焼却炉を建設するか、外部委託を行うかを求めるものである。無論、外部に焼却炉建設するにしても外部委託するにしても、焼却炉の性能はWHOの求める水準をクリアしたものでなければならない。

⑨、立ち入り検査・苦情処理・事故の補償その他について

市の草案は、事故時に立ち入り検査に同行出来る市民を地域近隣に限定しているが、事故の規模にもより、排煙、排気、排水に係わる事故は、武田研究所の規模、大きさ、高さからして地域近隣ばかりでなく3km圏内はおろかより広域に、また、境川流域、江の島河口に及ぶ。市民が安全協議会設置で求めている範囲の市民を同行者の対象とすべきである。

また、条例・協定に違反した場合の抜き打ち検査、帳票検査ばかりでなく排水等のサンプリング検査、専門家の同行も協定の中に入れるよう求めてゆかなければならない。

さらに、苦情処理、事故の措置については補償を協定の中

に明記するとあわせ、市より研究所にたいし、全面的ないし部分的な操業停止勧告を規定する必要がある。
以上

13万年前、藤沢にナウマンゾウがいた

「藤沢にもナウマンゾウがいた」と題した展示会があり出かけてみた。

日本大学六会校舎の博物館は日大の高層校舎のすぐ左手にある。藤沢市教育委員会と日大生物資源科学部の共催である。13万年前の藤沢を想像させるわくわくするような気分で入ってみた。

生物資源科学部は生物を研究しているところ、博物館に入るとすぐにダチョウ、シカやアザラシなどの野生生物の剥製と骨格も展示してあり、他にもいろいろな動物の骨格の標本が並べられ、初めて入ってみた私には驚きであった。

3階の「ナウマンゾウがいた」展示室には4～5人の学生がいた。壁面には実物大のナウマンゾウの形を水色で描いてあり、発掘の様子などがパネル展示してあった。

発掘したときのままのナウマンゾウの肋骨や頸骨、肩胛骨（レプリカ）がそのままの形で展示してあり、大きさは想像するに十分なスペースであったが、なぜか頭の部分はなくて少しがっかり。発掘当時のVTRもあり、藤沢の天嶽院下（村岡地区）から1975年に発掘され、その後1980年に近くの造成地から発掘された。地質調査をしていた日大の研究者が偶然見つけたそうだ。当時の現場写真も展示され、ホンモノの骨も数点展示してあった。

また、その時代、温暖期で水位が高く藤沢や神奈川県のおほとんどが海の中であり貝の化石も多く出土していることも知ることができた。

今回展示協力の神奈川県立生命の星・地球博物館にはこの標本を基本に復元された骨格標本がある。

藤沢にもこんな古代へのゆめをかき立てる埋蔵文化財があったことは余り知られていない。

縄文時代や稲作時代の社会がどうであったかと想像してみるが、たとえわずかの展示でもあることが子どものゆめを育てることにつながるのではと思う。

身近に古代に触れるチャンスはあるのに常時展示されないのは施設が無いからかと、昨年の10月環境基本計画改定案のパブリックコメントの学習会のとき、展示場所がないことが埋蔵文化財の活用にならないと指摘された意見があったことを改めて思い起こさせる。

(日比遥)

(低炭素都市ふじさわをめざして)

ECONET INFORMATION

藤沢市消費者大会

2月13日(日) 13:30～16:00

市役所7階第7会議室

講演「そうだったのか食生活～ごはんが一番」

講師 幕内秀夫氏(管理栄養士)

問合せ 藤沢市消費生活センター 25-1111

地元農業を考える会

～生産者・消費者、共に生きる～

2011年2月6日(日) 10:00～13:00

J Aさがみ本店3Fホール

◎地産地消の現場からの報告 交流会 昼食付き

参加費 300円 野菜 漬物等販売あり

主催 地元農業を考える会 連絡先 0466-34-9062 末吉

武田薬品排水問題控訴審

2月28日(日) 14:00～

東京高等裁判所第822号法廷

傍聴をお願いします

連絡先 0466-27-5368 紺野

藤沢エコネットからのお知らせ

「ニュース第200号記念レセプション」

2月19日(土) 14:00～16:00

市民会館 第2会議室 会費1500円

◎記念講演「森林は地球温暖化を防げるか」

講師 木平勇吉氏(東農工大名誉教授・川名自然

フォーラム代表)

◎懇親会 ◎どなたでもご参加下さい

《編集後記》今年に入って日本海側は大雪、宮崎県では新燃岳噴火に、鳥インフルエンザにと大変な被害にあっている。さて今号から紙面を一新し、遅ればせながらサイズをA4版にした。できるだけ読みやすく、保存にもと心がけた。加えて今後、情報の時代にホームページを充実させる予定で全ての記事を掲載できるようにチャレンジしていきたい。若ものなら簡単な操作も、四苦八苦しなごらの試みである。この機会に、どうぞふるって藤沢エコネットに参加していただき、環境問題を取り組んでみませんか。(H)